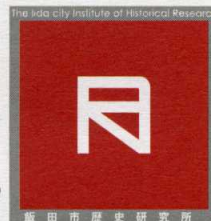


飯田市歴史研究所
09.08.01
飯田市
歴研ニュース

News Letter
No. 41
The Iida City Institute
of Historical Research

飯田市歴史研究所
〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第7回地域史研究集会を開催します

今年も飯田市地域史研究集会の季節がやってきました。地域史研究集会は、飯田・下伊那をフィールドとする歴史・文化の研究者と地域の人々が一同に会し、日頃の研究活動の成果を発表し意見を交わすことを目的に開催されます。第7回を迎える今年度は、「アジア・太平洋戦争にいたる道—霞ヶ関と飯田から—」をテーマに、地域と戦争との関わりについて考えます。

8/2009
29-30
土 日

特集 アジア・太平洋戦争にいたる道—霞ヶ関と飯田から—



飯田高等女学校の生徒たち（勤労働員に行く前に校門前にて撮影、前列中央は工場の係員）
昭和20年1月撮影 写真提供：橋爪道子さん（飯田市）

- 会場
飯田信用金庫本店2階大会議室
(飯田市本町1丁目2番地)
- 参加料 500円
(29・30日を通して、資料代 高校生以下は無料)
- 事前申込み不要
- 出入り自由

■主催
飯田市
飯田市教育委員会



すでに戦後60年を過ぎ、アジア・太平洋戦争の記憶は体験者の高齢化などによって薄れつつありますが、他方であらためてその意味が問いなおされてきています。なぜ、どのようにしてあの戦争にいたったのかを、軍部や外務省など権力中枢の動きのみにもとめるのではなく、地域の視線から見なおし、具体的に考えていきたいと思えます。

山崎幸一郎「興禅寺学寮素描」
(上久堅・興禅寺蔵)
昭和20年6月から東京第一師範附属国民学校の児童たちが上久堅の興禅寺に疎開しました。この史料は、その引率をした山崎先生が、翌21年、記念に贈った絵巻物です。絵は疎開先の興禅寺で手紙を書く児童たち。

8月29日 (土)

12:30	受付開始	
13:00	歴研賞授賞式	飯田・下伊那の地域史研究における優れた研究や活動の表彰
13:20	特集	「アジア・太平洋戦争にいたる道」
	趣旨説明	上山和雄 (顧問研究員・國學院大學教授)
	講演	加藤陽子 (東京大学教授) 「歴史的に見た日中戦争の特殊性」 須崎慎一 (神戸大学教授) 「信州郷軍同志会と日中戦争」 仲田文之助 (飯田市) 「昭和10年代の教育と人々の暮らし」
	質疑応答	

8月30日 (日)

9:30	小特集	「河野村長 胡桃澤盛について」	
		胡桃澤健 (豊丘村)	「父を語る」
		橋部進 (飯田市)	「胡桃澤盛日記の可能性」
10:50	研究報告	榎村洋介 (美術博物館学芸員)	「西に向かう牛群—満蒙開拓の記憶と画家仲村進」
		飯田西中学校3年生	「大人への一歩 社会に挑戦!—私の5日間の職場体験」
		ソマン (横浜国立大学大学院)	「高度経済成長期日本の過疎対策—南信濃村を事例に」
		多和田真理子 (調査研究員)	「近世座光寺における「分村」運動」
		本島和人 (調査研究員)	「飯田下伊那をめぐる、「非勢力圏」への人口移動」
		池田勇太 (研究員)	「旗本近藤家の明治維新」

第52講座

講師 **後藤 治さん** (ごとう おさむ)

場所 **りんご庁舎 3階会議室**

(工学院大学教授/長野県文化財保護審議会委員)

「建築の保存と長野県の文化財」 10月3日(土) 13:30~17:00

第1テーマ

日本において法律による歴史的建築物の保存は、古社寺保存法からはじまり、それは国宝保存法、文化財保護法へと継承されてきました。現在、文化財保護法の下で保護されている歴史的建築物は、文化財保護法の改正やその運用の変化などによって、多種多様な建築物へとひろがっています。この講義では、こうした法制度の変遷にともない、どのように歴史的建築物の保存が変化してきたのかを解説します。同時に、その変化にもなって、長野県内において、どのような建築物が保存の対象になってきたのかを振り返ります。その上で、歴史的建築物の保存にかかわる現状を紹介し、今後、歴史的建築物をどのように保存していけばよいのかを展望してみたいと思います。

「文化財建造物を安全に守る」 10月4日(日) 10:00~14:30

第2テーマ

近年、各地で大規模な地震が発生し、古い木造建物に大きな被害があったことが紹介されています。また、各地で文化財を含む歴史的建築物の火災被害が相次いでいます。多くの文化財建造物は、木造です。また、文化財建造物は、建設後に相当の年数が経過しています。はたして、文化財建造物の安全は大丈夫なのでしょう。この講義では、地震や火災に対して木造建物が持つ基本的な特性を紹介しながら、様々な文化財建造物について、どのように安全を確保する工夫がなされているのかを、国内外の事例を用いながら概説します。その上で、今後、文化財を含む歴史的建築物の安全を確保するために、どのような課題があるのかを展望してみたいと思います。

第53講座

講師 **神田 由築さん** (かんだ ゆつき)
(お茶の水女子大学准教授)

第54講座

講師 **吉田 裕さん** (よしだ ゆたか)
(一橋大学大学院教授)

第55講座

講師 **田中 雅孝さん** (たなか まさたか)
(松川高校教諭/調査研究員)

場所 **りんご庁舎 3階会議室**
11月14日(土) 13:30~17:00

場所 **上郷考古博物館 1階会議室**
1月16日(土)

場所 (未定)
3月13日(土) 13:30~17:00

第1テーマ
「江戸の浄瑠璃文化」

13:30~17:00

第1テーマ
「日本産業革命と下伊那の蚕糸業」

11月15日(日) 10:00~14:30

テーマ
「アジア・太平洋戦争
の戦場と兵士」

3月14日(日) 10:00~14:30
第2テーマ
「世界大恐慌と下伊那の組合製糸」

- 講義時間 1講座は4コマ(1コマ90分)です。(各日2コマ)
- 会場 第52・53講座—りんご庁舎3階会議室(飯田市本町1丁目15番地 飯田市地域交流センター)
第54講座—飯田市上郷考古博物館1階会議室(飯田市上郷別府2428-1)
各回会場が異なりますのでご注意ください。
- 募集人員 各講座30人
- 受講料 1講座400円(資料代)
※上郷考古博物館を見学される場合には、別途入館料が必要となります。(大人200円)
- 申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。
※ファクシミリ、Eメールでのお申込みは住所・氏名・電話番号を明記してください。
※電子申請 [ながの電子申請サービス \(http://shinsei.e-nagano.lg.jp\)](http://shinsei.e-nagano.lg.jp) でもお申込みできます。
- ★諸事情により、日程等が変更になる場合があります。市広報等でお知らせしますので、ご注意ください。

歴史研究所「市民研究員」募集

飯田・下伊那の地域史研究などを担う研究者を育成するためボランティアの市民研究員を募集します。

市民研究員の主な活動

研究員としての活動期間 2年間
歴史研究所研究員の指導により研究論文を作成
歴史研究所の諸活動に参加

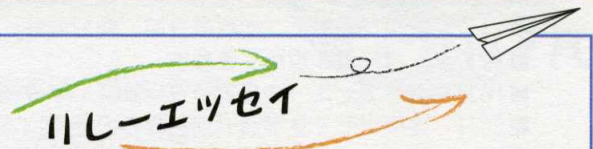
募集人数 若干人
応募方法 研究テーマ、研究計画、志望動機を記入し、歴史研究所に提出してください。
所定の様式はホームページに掲載します。
申込期限 平成21年9月1日(火)
審査 9月末日までに審査結果をお知らせします。
問い合わせ 歴史研究所 電話 0265-53-4670
Eメール iihr@city.iida.nagano.jp

（こちらは4月25日から中央図書館で開催された上飯田村地引絵図展示会の感想文です。）

会期中4日間、私は数日にわたって受付の一部を担当した。歴研入手の上飯田村田畑山林地引絵図の3枚には、地域に関係のある見学者が目凝らして見入っていた。祖父母の代までさかのばれば、明治・江戸時代は肉親の人間関係の中ですぐ先に実感できる。絵図を見ながら序々にタイムスリップする様子が伝わってくる。「阿弥陀寺はどこかな」という声に誘われて、せんしょ（おせっかい）に絵図の側に行く。山門・仏閣のような絵の隣に鳥居もある。その周辺には阿弥陀寺持ちの藪や土地が描かれている。記名はないが絵は阿弥陀寺だと理解できる。

図書館所蔵の二つの掛軸、松川入絵図・松川黒川大島野底入山絵図の前に立った。野底山林道が畑ノ沢辺りで三つに分かれ、真中の道が登って下ると松川のほとりに炭釜が二つ描かれている。「河原小屋・炭釜・大あれ・炭かま」という記名が並び、上方に「此二炭小屋在」と書かれていた。「大あれ」は現在も大荒れの斜面で、国土工事が行われている場所だ。学童の頃、入道から学校の暖房用に炭を背負い出したと話す人は今もいる。その炭の道がいつ頃できたか。「天保四巳とし中 上郷五ヶ村より新道作り入」との書込みで判明した。私は感慨深く、何回も二つの絵図の前に立った。

本年の研究集会のテーマ、
「アジア・太平洋戦争にいたる道
—霞ヶ関と飯田から—」について



上山和雄（顧問研究員／國學院大學教授）

今年の研究集会は、標記のテーマのもと、神戸大学の須崎慎一氏と東京大学の加藤陽子氏のご講演に加え、少年航空志願兵だった仲田文之助氏からもお話を頂き、また二日目には、貴重な日記を残されている旧河野村村長胡桃澤盛氏について、中間報告的な発表をお願いしています。

飯田・下伊那の地と人々は、明治維新からアジア・太平洋戦争敗戦にいたる日本の近現代史上、いくつかの場面・分野において、重要な役割を演じ、また与えられてきました。1930年代以降、すなわち、現在聞き取り可能な時代の重要なテーマとして「満洲移民」の問題があり、インタビューを含め、多面的に取り組まれています。満洲移民問題の重要性と緊急性は言うまでもありません。ただ私が気になっていたのは、同時代に生じていた、左翼的な青年団運動の衰退と信州郷軍同志会などの「草の根のファシズム」の問題です。

下伊那は、左翼的青年団運動がもっとも展開した地であり、また草の根のファシズムがおそらくもっとも広範に且つ深く人々をとらえた地ではなかったかと思われます。こうした動きの核心のみでなく、周辺にいた人々も既に鬼籍に入れ、インタビューは不可能かと思われます。しかし、その時代の雰囲気を知っておられる方々はなおいらっしゃいます。満洲移民問題と同様に、飯田・下伊那の地において、草の根のファシズムがどのように展開していたのかを記録しなければ、永久にそのときは失われると感じています。

須崎氏は下伊那のみならずこうした研究のパイオニアであり、加藤氏は外交史・軍事史に加え、近年は飯田の研究にも着手されています。お二人にはご講演を快諾していただきました。私も大変楽しみにしています。この研究集会をきっかけに、飯田・下伊那の戦時、戦後の研究がいつそう進むことを期待しております。

定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

9月12日（土）

「20世紀の村における公共性—下久堅南原集落を事例に—」

講師：坂口正彦（調査研究補助員）

場所：歴史研究所 2階研修室 時間：午後2時～4時

歴研ゼミ 8月・9月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分
（各ゼミ共通）

近世史ゼミ

■開催日 8月4日・18日
／9月1日・15日
（第1・第3火曜日）

■担当 竹ノ内雅人
（研究員）

近現代史ゼミ

■開催日 8月27日
／9月10日・24日
（第2・第4木曜日）
※8月13日はお休みです。

■担当 田中雅孝
（調査研究員）

建築史ゼミ

■開催日 9月8日
（第2火曜日）
※8月11日はお休みです。

■担当 金澤雄記
（研究員）



『飯田市歴史研究所 年報7』

【内容】

- シンポジウム
「伊那谷の古墳と古代の舎人軍団
—大王家の親衛騎兵隊と古代の飯田—」
- 論文
・近世鳩ヶ嶺八幡宮の社会構造
- 『史料で読む飯田・下伊那の歴史』
- ②天保飢饉と江戸の元結取引
- 調査報告
・旧南信濃村役場文書調査・整理の経過
・部奈一朗氏所蔵文書現状記録調査の経過と概要
・飯田・下伊那の本棟造一本棟造調査中間報告—
・家相図と建築
・鈴木俊平の経歴と建築活動
・飯田市立浜井場小学校円形校舎について ほか

B5判 268頁
定価1800円
飯田市歴史研究所 編
2009年8月末発行予定

申込み・問い合わせ
飯田市歴史研究所
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173

歴研日誌

6月

- 2日 近世史ゼミ「町医者と天保飢饉」
- 2・3日 職場体験学習—竜峡中学生
- 7日 豊丘村教育委員会主催 建造物勉強会
- 9日 建築史ゼミ「橋北・庭園」
- 11日 近現代史ゼミ「胡桃澤日記 翻刻方針」
- 12日～ 市行政非現用文書移管
- 16日 近世史ゼミ「後見養子買い証文 その後」
- 20日 建築史ゼミ見学会「羽場坂の旧道筋」
- 19～21日 今村八束家史料調査—座光寺麻績史料館
- 24日 自治振興センター文書現状調査—9ヶ所
- 25日 近現代史ゼミ 文献講読「昭和の記憶を掘り起す」
- 27日 定例研究会「上久堅分村の新資料から
—『渡満名簿』から見えてくるもの—」本島和人
- 4・10・16～19・23・25～27日 本棟造調査

7月

- 2日 長野県史料保存活用連絡協議会総会・講習会
—上田市立図書館
- 7～9日 職場体験学習—緑ヶ丘中学生
- 7日 近世史ゼミ
「指上ヶ申手形之事（おどし鉄砲証文2通について）」
- 9日 近現代史ゼミ 文献講読「昭和の記憶を掘り起す」
- 10日 研究活動助成申請締切り
- 11日 建築史ゼミ見学会「鈴木俊平の建築」
- 11日 飯田アカデミア第51講座 第1テーマ「古代天皇の食卓」
- 12日 飯田アカデミア第51講座 第2テーマ
「古代天皇の食材の集めかた」佐藤全敏さん—上郷考古博物館
- 13日 「丘の上」研究会
- 14日 建築史ゼミ「円形校舎」
- 18日 定例研究会「交代寄合近藤家の明治維新」池田勇太
- 18日 地域史講座「満州移民—飯田下伊那からのメッセージ3
昭和20年5月まで渡満した阿智郷」齊藤俊江—山本公民館
- 19～21日 南信濃史料調査合宿—南信濃基幹集落センター
- 21日 近世史ゼミ「義雄集の下書『片桐家文書』より」
- 22日 虎岩区有文書調査—虎岩交流センター
- 23日 近現代史ゼミ（研究集会準備）
- 24日 歴研賞応募締切り
- 25日 地域史研究集會事前学習会
「日本ファシズムとその時代／満州事変から日中戦争へ」
- 26日 橋南公民館主催 建造物勉強会
- 28～30日 史料調査実習—武蔵高校生—東京
- 31日 第2回歴史学オリエンテーション
- 29～8月1日 史料調査—中央大学近現代史ゼミ
- 2・3・10・15・16・22・23・28・29日 本棟造調査

- 継続調査 松澤卓治氏所蔵文書、菊池謙一・幸子史料、今村八束氏所蔵文書、北原嘉雄氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、田中伍市関係史料、上松家所蔵文書、中原謹司史料、楯操氏史料、岡田昭夫氏所蔵文書、部奈一朗氏所蔵文書、南信濃自治振興センター所蔵文書、小林八十古文書、島岡和治氏所蔵文書、座光寺久男氏所蔵文書、虎岩区有文書

8月・9月の催事スケジュール

8月		2009	9月	
土	美博まつり建築フェース	1	火	近世史ゼミ
日		2	水	
月	東大現状記録調査	3	木	職場体験 西中
火		4	金	
水	近世史ゼミ	5	土	
木		6	日	
金		7	月	
土		8	火	建築史ゼミ
日		9	水	
月	職場体験 遠山中	10	木	職場体験 旭ヶ丘中
火		11	金	
水		12	土	定例研究会
木		13	日	
金		14	月	
土		15	火	近世史ゼミ
日		16	水	
月	近世史ゼミ	17	木	清内路調査合宿
火		18	金	
水		19	土	
木		20	日	
金		21	月	
土		22	火	
日		23	水	
月	近世史ゼミ	24	木	近現代史ゼミ
火		25	金	
水		26	土	
木	近現代史ゼミ	27	日	
金		28	月	
土	研究員会議	29	火	
日		30	水	
月	第7回地域史研究集会	31		

開所日 休所日
開所時間 午前9時～午後5時
休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日